

# シニア世代を対象とした情報教育の可能性についての考察

## —東京都立大学プレミアム・カレッジでのプレゼンテーションの授業実践を踏まえて—

伏木田 稚子<sup>†</sup> 永井 正洋<sup>†</sup>

東京都立大学大学教育センター

### 1. 背景

ICT (情報通信技術) の利活用が当たり前重視される昨今, それはシニア世代<sup>1)</sup>にとっても例外ではない. パソコンやスマートフォンでインターネットを利用できる 65 歳以上の人々は, 社会参加の機会や友人が多く (近藤 2016), ICTは心と暮らしを豊かにしうると期待されている (公益財団法人長寿科学振興財団 2019). 普段の暮らしだけでなく, 生涯学習で自立的に学ぶために情報リテラシーが必要だという指摘もある (Solmaz 2017, Salim *et al.* 2018, 伏木田・永井 2021).

しかし, 現在のシニア世代は初等から高等教育までの間に体系的な情報教育を受けていない. そのため職場での経験を除くと, パソコンに習熟する機会は, 市区町村やカルチャーセンター主催の講座が中心となる. 実際に, 自治体, 機器の製造企業, NPO 団体により, 高齢者に対する ICT 利活用の支援が行われてきた (近藤 2016).

また, 大学教員によるパソコン教室の実践例も報告されている. 例えば小松・小郷 (2000) は, 他者の寄り添いが高齢者のパソコン学習を支えたと考察する. 最近では, 大学での生涯学習を通じた情報リテラシー教育も検討され, 授業での活用機会の充実がコンピュータの利用不安の低減につながるという (伏木田・永井 2021).

### 2. 問題と目的

高齢者のパソコン利用の障壁については, やる気, 難しさ, ウイルス詐欺などのリスクが挙げられている (内藤 2021). しかし, 「どのような道具的な支援が高齢者のパソコン使用を楽にするか」 (小松・小郷 2000), 「授業に参加していく過程でどのように不安が解消され, コンピュータを主体的に活用していく姿勢や技能が身につくのか」 (伏木田・永井 2021) などの問いは, 十分に追究されていない.

そこで本研究では, 大学での生涯学習において, シニア世代を対象に情報リテラシーの習得を目標とする授業を行い, その成果を学習者の視点で明らかにした. 具体的には, シニア世代

が大学でコンピュータを活用した探究活動に取り組む場面を想定し, 授業の構成と支援体制を工夫した (「3.1. 研究の対象」に詳述). その上で「教員やチューターによる支援, 履修生同士の支え合いを通して, シニア世代はコンピュータの活用について何を学び得たのか」という RQ (Research Question) を立て, 探索的に検討した.

### 3. 方法

#### 3.1. 研究の対象

東京都立大学は 2019 年 4 月に, 50 歳からの「新たな学びと交流の場」として「東京都立大学プレミアム・カレッジ」を開講した. 「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマに, 文系・理系の枠を超えた講義や演習, フィールドワークなどでカリキュラムが構成される (東京都立大学 2021). 中心にはゼミナールが位置づけられ, 修了論文の作成と成果発表会でのプレゼンテーションを目指して通年で研究活動を行う.

その中で筆者らは, コンピュータの利活用に不安を感じているプレミアム・カレッジの受講生に向けて, 例年前期に「パソコン技術」という授業を提供している. 情報の収集, 分析, 編集, 発信などに関する能力の向上と, 他者とコミュニケーションをとりながら課題解決を図ることを目的に, タイピング, 文書作成, 表計算, プレゼンテーションの順に学習する.

授業は週に 1 回, 1 人 1 台のコンピュータ利用が可能な教室で行われ, 2022 年度は, 教員 3 名 (主担当は 1 名で残り 2 名は個別対応に従事) と学生チューター 3 名の 5 名体制で, 計 11 名の履修生を指導した. 本研究では, 第 1 著者が主担当を務めた「Microsoft PowerPoint を用いたプレゼンテーション」 (表 1 参照) に焦点を当てる.

表 1 プレゼンテーション (全 5 回) の概要

1	意義・目的, 準備の 3 段階 (特に内容と構成)
2	スライドのデザイン, 文字の入力
3	著作権の基本, 表・画像・図の挿入
4	視覚効果, 画面切り替え・アニメーション
5	発表会 (発表 3 分・質疑応答 4 分)

### 3.2. データの収集と分析の手順

プレゼンテーション5(発表会)の後、「以下の2点について、今の思いや考えを自由に記述してください。」というふり返りワークを課した。

A) 全5回を通じて、新しい気づきが得られた、成長できたと感じていること

B) 他の方のプレゼンテーションを見聞きして、自分のプレゼンテーションをより良くするために必要だと考えたこと

本研究では、履修生11名が提出したワークについて、質的データ分析(佐藤2008)を行った。はじめに、テキストを意味ごとに切片化(セグメント)してコードを付けた後、コードの類似性に基づいてカテゴリーを作成した。

### 4. 結果と考察

セグメントを「」, コードを【】、カテゴリーを[]で表しながら、RQへの答えを記述する。まず授業開始当初は、【わからないことがわからない】、【自信がなくおろおろしてしまう】など、[不安な気持ちを抱えて授業に参加する]履修生が半数程度いた。しかし最終的には、「少しずつ、パソコンは便利、面白いと感じるようになったことにびっくりした」や「メンタルな部分は克服できました」のように、[パソコンを使うことへの不安や苦手意識が解消される]ところまで到達していた。

そこに至るまでには、[プレゼンテーションの理論と表現力について新しい知識と技法を取り入れる]、[学ぶ過程でプレゼンテーションに関する試行錯誤を繰り返す]ことを諦めなかった履修生の努力がある。多くの履修生が記した「感謝しています」の言葉からは、【教員による要所要所でのアドバイス】や【チューターによる丁寧でわかりやすいサポート】、【教える側の笑顔】といった[わかりやすい説明と緊張感をほぐす雰囲気づくり]が意欲的な学びを支えていたと示唆される。

他者から得た気づきについては、【自分の考えを相手に伝えたいという気持ちを表す】や【最も伝えたいことだけをスライドに収める】ことなどが大切で、「内容と構成を考える時間を充分とり臨みたい」のように、これから心がけたいことを示す履修生もいた。さらに、【わからなかったことがわかってうれしい】や【学ぶことは楽しい】といった[学ぶことで気持ちが揺り動かされる]経験、[学んだことをこれからの人生に見出す]意気込みも垣間見られた。

以上をまとめると、本授業を通じてシニア世代は、コンピュータの活用によって自身の考え

を相手に伝えることの意義に気づき、学び楽しさを様々な場面で見出していたと推察される。こうした知見を踏まえて、シニア世代の情報教育の望ましいあり方を追究していきたい。

### 注

1) 65歳以上を「高齢者」と呼ぶことが多いが、より詳細な区分や定義がある状況を考慮し、本稿では50歳以上を「シニア世代」と表現した。

### 参考文献

- 小松裕子, 小郷直言 (2000) 高齢者とパソコン—山田村の事例を中心に—. 高岡短期大学紀要, 14: 27-38
- 近藤則子 (2016) 高齢者のICT利活用の課題と対策 2016—拡がり続ける情報格差. 地域IoT実装推進タスクフォース 人材・リテラシー分科会 (第3回) 配布資料. [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000458086.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000458086.pdf) (参照日 2023.1.11)
- 公益財団法人長寿科学振興財団 (2019) 高齢者のICT利活用の支援. 健康長寿ネット <https://www.tyojyu.or.jp/net/kenkou-tyoju/koreisha-ICT/koreisha-ICT-rikatsuyo-shien.html> (参照日 2023.1.11)
- 伏木田稚子, 永井正洋 (2021) シニア世代の生涯学習を支える情報リテラシー教育の実践要件に関する検討—TMUプレミアム・カレッジの実態を例に—. 日本教育工学会論文誌, Vol.45, No.2, pp.159-172
- 内藤由美 (2021) 特集2: 高齢者のパソコン利用に寄り添う—心と暮らしを豊かに—. 日経パソコン, 866: 30-41
- Salim, S. F. M. Y. S., Mahmood, M. F., & Ahmad, A. B. (2018) The importance of information literacy to support lifelong learning in convergence era. *International Journal of Academic Research in Progressive Education and Development*, 7(3): 352-362
- 佐藤郁哉 (2008) QDA ソフトを活用する 実践質的データ分析入門. 新曜社, 東京
- Solmaz, D. Y. (2017) Relationship between lifelong learning levels and information literacy skills in teacher candidates. *Universal Journal of Educational Research*, 5(6): 939-946
- 東京都立大学 (2021) 生涯学べる100歳大学 東京都立大学プレミアム・カレッジ. [https://www.pc.tmu.ac.jp/curriculum/curriculum\\_about/](https://www.pc.tmu.ac.jp/curriculum/curriculum_about/)

A Study on the Possibility of Information Education for Senior Citizens: Based on the Practice of a Presentation Class at Premium College, Tokyo Metropolitan University  
† Wakako Fushikida, Masahiro Nagai, University Education Center, Tokyo Metropolitan University